

平成22年3月期 第2四半期決算短信

平成21年11月6日

上場会社名 マナック株式会社

上場取引所 東

コード番号 4364 URL <http://www.manac-inc.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 杉之原 祥二

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部長

(氏名) 岡本 道俊

TEL 084-954-3330

四半期報告書提出予定日 平成21年11月12日

配当支払開始予定日

平成21年12月10日

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第2四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第2四半期	4,034	—	△111	—	△46	—	△27	—
21年3月期第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第2四半期	△3.37	—
21年3月期第2四半期	—	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第2四半期	11,797	8,187	69.4	1,018.96
21年3月期	—	—	—	—

(参考) 自己資本 22年3月期第2四半期 8,187百万円 21年3月期 一百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	5.00	—	2.50	7.50
22年3月期	—	2.50	—	—	—
22年3月期(予想)	—	—	—	5.00	7.50

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,000	—	60	—	110	—	50	—	6.22

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 有

新規 2社 (社名 八幸通商株式会社、南京八幸薬業
科技有限公司) 除外 1社 (社名)

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 無

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 無
- ② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	22年3月期第2四半期	8,625,000株	21年3月期	8,625,000株
② 期末自己株式数	22年3月期第2四半期	589,589株	21年3月期	584,153株
③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間)	22年3月期第2四半期	8,035,549株	21年3月期第2四半期	8,273,386株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 上記の業績予想は現時点で入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。
2. 平成21年4月1日付で八幸通商株式会社を完全子会社化したことに伴い、平成22年3月期第1四半期決算より連結決算に移行しております。
3. 南京八幸薬業科技有限公司は八幸通商株式会社の100%子会社であります。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間における経済状況は、金融機関の信用不安を発端に、昨年秋から続いていた世界的な経済の混乱は、需要の急激な減少を引起し、パニック的な在庫調整等から経済は大きく後退する厳しい状況となっておりますが、各国が打出した財政出動による景気刺激策の効果が徐々に現れ始め、春以降は新興国向けの需要の急回復により在庫調整は一巡して生産は持ち直しつつありました。

わが国経済におきましても、世界的な景気後退の影響をまともに受け、企業は昨年の秋以降輸出の低迷と急激な円高により、大幅な生産調整に対処することと収益悪化を防ぐために、派遣社員を中心に契約の解除・非更新で、人件費の圧縮、諸経費の全面見直しや設備投資の凍結を行い収益改善に取り組んでおりましたが、政府の補正予算に伴う一定の効果や海外の景気浮揚策、在庫の適正化等により7月以降生産はピークの85%程度まで回復しているとされていますが、景気浮揚策に支えられた回復に懸念もあり、景気の持続性に課題を抱えています。

化学業界でも、在庫調整が一巡した感があるものの、円高の影響により海外での生産ウエイトを引き上げるなど、生産拠点の最適化を模索し収益改善に努めているものの、全体的には厳しい経営環境が続いております。

このような環境にあって、当グループも最先端の電子関連の原料は、生産調整がほぼ収束した感があり、受注はまだスポットではありますが回復傾向が見られ、経費の大幅な圧縮と設備の選別投資を実施する中で、経常損益において、第1四半期連結会計期間と当第2四半期連結会計期間との比較では、赤字幅は縮小しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の当グループの売上高は4,034百万円、利益面におきましては、営業損益は111百万円の損失、経常損益は46百万円の損失、四半期純損益は27百万円の損失となりました。

なお、当社は第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しておりますので、前年同期比較は行っておりません。

事業の種類別セグメントの業績の概要は以下のとおりであります。

①ファインケミカル事業

ファインケミカル全体としては、昨年秋以降からの世界同時不況により、産業全体で生産調整等が続き、低調に推移しました。

電子材料については、半導体、電子・精密機器等のハイテク分野において使用される材料は、各ユーザーでの在庫調整等から全体的な調整は進みつつあり需要は回復傾向にあるものの、一部の材料では需要が低調に推移しました。

医薬関連については、今回の不況に大きく左右されることなく、特に医薬中間体においては、順調に推移しました。

その結果、ファインケミカル事業として売上高は2,210百万円となりました。

②難燃剤事業

大幅な需要後退により、家電・IT産業の冷え込みに連動して樹脂業界も大規模な在庫調整、生産調整が実施されましたが、主力製品であるプラスチック用難燃剤は、在庫調整が進み若干回復しつつあり、その結果、売上高は1,142百万円となりました。

③ヘルスサポート事業

昨年に引続き、既存製品の拡販に取り組み、試薬用途の需要については堅調に推移したものの、医薬用途の需要は横ばいに推移しました。その結果、売上高は681百万円となりました。

なお、当社は、第1四半期連結会計期間より、事業の種類別セグメント情報を作成しておりますので、前年同期比較は行っておりません。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

(1) 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の総資産は11,797百万円となりました。そのうち流動資産は7,092百万円、固定資産は4,704百万円となりました。負債につきましては3,609百万円となりました。そのうち流動負債は2,411百万円、固定負債は1,197百万円となりました。純資産につきましては8,187百万円となり、自己資本比率は69.4%となりました。また、1株当たり純資産額は1,018円96銭となりました。

なお、当社グループは、第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、前連結会計年度末との対比の記載はしておりません。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、443百万円の収入となりました。

これは、税金等調整前四半期純損益は赤字であったものの、減価償却費の計上やたな卸資産の減少によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、137百万円の収入となりました。

これは主として、新規連結子会社の取得による収入によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、68百万円の収入となりました。

これは主として、新たに借入を行ったことによるものです。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

当社グループは当連結会計年度より連結決算に移行しております。

通期の連結業績予想の見通しにつきましては、平成21年8月7日に発表いたしました「連結業績の見通しに関するお知らせ」をご覧ください。

業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

当社は平成21年4月1日付で八幸通商株式会社を完全子会社としており、その100%子会社である南京八幸薬業科技有限公司とともに、第1四半期連結会計期間より連結決算の範囲に含めております。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

当第2四半期連結会計期間末
 (平成21年9月30日)

資産の部	
流動資産	
現金及び預金	734,092
受取手形及び売掛金	2,376,934
有価証券	1,430,842
金銭の信託	500,000
商品及び製品	915,410
仕掛品	472,861
原材料及び貯蔵品	503,616
繰延税金資産	79,125
その他	82,041
貸倒引当金	△2,149
流動資産合計	7,092,777
固定資産	
有形固定資産	
建物及び構築物(純額)	1,200,150
機械装置及び運搬具(純額)	857,422
土地	1,093,295
建設仮勘定	87,906
その他(純額)	103,452
有形固定資産合計	3,342,228
無形固定資産	6,124
投資その他の資産	
投資有価証券	873,975
関係会社長期貸付金	116,400
繰延税金資産	165,385
その他	200,709
貸倒引当金	△600
投資その他の資産合計	1,355,870
固定資産合計	4,704,223
資産合計	11,797,001

(単位：千円)

当第2四半期連結会計期間末
(平成21年9月30日)

負債の部	
流動負債	
支払手形及び買掛金	972,833
短期借入金	916,928
未払法人税等	12,501
賞与引当金	83,582
その他	425,365
流動負債合計	2,411,211
固定負債	
長期借入金	640,756
退職給付引当金	222,992
役員退職慰労引当金	55,329
負ののれん	170,386
その他	108,528
固定負債合計	1,197,992
負債合計	3,609,203
純資産の部	
株主資本	
資本金	1,757,500
資本剰余金	1,947,850
利益剰余金	4,758,853
自己株式	△243,238
株主資本合計	8,220,965
評価・換算差額等	
その他有価証券評価差額金	7,580
為替換算調整勘定	△40,748
評価・換算差額等合計	△33,168
純資産合計	8,187,797
負債純資産合計	11,797,001

(2) 四半期連結損益計算書
(第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)
売上高	4,034,492
売上原価	3,377,990
売上総利益	656,502
販売費及び一般管理費	768,193
営業損失(△)	△111,691
営業外収益	
受取利息	3,711
受取配当金	7,637
有価証券売却益	572
負ののれん償却額	18,931
受取ロイヤリティー	21,251
助成金収入	12,876
その他	16,419
営業外収益合計	81,399
営業外費用	
支払利息	13,357
その他	2,714
営業外費用合計	16,071
経常損失(△)	△46,363
特別利益	
前期損益修正益	12,636
投資有価証券売却益	4,939
その他	1,070
特別利益合計	18,646
特別損失	
固定資産処分損	1,972
ゴルフ会員権評価損	648
その他	600
特別損失合計	3,220
税金等調整前四半期純損失(△)	△30,937
法人税、住民税及び事業税	7,023
法人税等調整額	△10,907
法人税等合計	△3,884
四半期純損失(△)	△27,053

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)	
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純損失(△)	△30,937
減価償却費	223,159
負ののれん償却額	△18,931
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△9,100
賞与引当金の増減額(△は減少)	△2,430
退職給付引当金の増減額(△は減少)	7,800
受取利息及び受取配当金	△11,349
支払利息	13,357
投資有価証券売却損益(△は益)	△4,939
有形固定資産除却損	1,972
売上債権の増減額(△は増加)	61,152
たな卸資産の増減額(△は増加)	175,112
仕入債務の増減額(△は減少)	159,564
その他	△97,774
小計	466,656
利息及び配当金の受取額	11,095
利息の支払額	△13,361
法人税等の支払額	△20,537
営業活動によるキャッシュ・フロー	443,853
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	△114,894
定期預金の払戻による収入	104,767
有形固定資産の取得による支出	△95,523
投資有価証券の取得による支出	△14,949
投資有価証券の売却による収入	29,319
子会社株式の取得による収入	225,440
貸付金の回収による収入	3,000
その他	572
投資活動によるキャッシュ・フロー	137,733
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額(△は減少)	△98,744
長期借入れによる収入	300,000
長期借入金の返済による支出	△112,172
自己株式の取得による支出	△176
配当金の支払額	△20,089
財務活動によるキャッシュ・フロー	68,816
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	650,403
現金及び現金同等物の期首残高	1,877,496
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,527,900

(4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

第2四半期連結累計期間(自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)

	ファインケミカル事業 (千円)	難燃剤事業 (千円)	ヘルスサポート事業 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	2,210,177	1,142,763	681,552	4,034,492	—	4,034,492
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	(—)	—
計	2,210,177	1,142,763	681,552	4,034,492	(—)	4,034,492
営業利益又は営業損失(△)	156,833	50,780	81,560	289,173	(400,864)	△111,691

(注) 1. 事業区分の方法

事業は、製品の系列及び市場の類似性を考慮して区分しております。

2. 各区分に属する主要な製品

事業区分	主要製品
ファインケミカル事業	電子材料及び医薬品とそれらの中間体
難燃剤事業	プラスチック用難燃剤
ヘルスサポート事業	人工透析液用原料及び試薬

3. 当社グループは第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、前年同四半期数値の算出は行っておりません。

[所在地別セグメント情報]

当第2四半期連結累計期間(自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)

本邦の売上高は、全セグメントの売上高の合計に占める割合が90%超であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

[海外売上高]

当第2四半期連結累計期間(自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)

	アジア	計
I 海外売上高(千円)	659,089	659,089
II 連結売上高(千円)		4,034,492
III 連結売上高に占める海外売上高の割合(%)	16.3	16.3

(注) 1. 国又は地域は、地理的近接度により区分しております。

2. 各区分に属する国又は地域の内訳は次のとおりであります。

アジア……台湾、中国、韓国

3. 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。

6. その他の情報

該当事項はありません。